令和7年度 山形県立東桜学館中学校　# 『未来創造プロジェクト』 学年テーマ・計画

『未来創造プロジェクト』基本目標
やまがたに対する誇りと愛着を育みながら、事象を総合的に追究する方法を身につけ、様々な視点から主体的に課題を見いだし、多様な他者と協働して課題を解決する探究活動に進んで取り組む能力と態度を育てるとともに、自己の生き方や社会参画の在り方を考えることができるようにする。

	１学年 つくる・うみだす	２学年 うごく・つながる	３学年 さぐる・たしかめる
学年の大テーマ	【グループ探究】 身近なところからデザイン（よりよく）する。	【個人・グループ探究】 やまがたの未来をデザイン（よりよく）する。	【課題研究チャレンジ（個人・グループ）】 社会に貢献できる未来の自分をデザインする。
めあて	デザイン思考を活かし、自分の身の回りに目を向けながら、よりよくしようとする姿勢と発想を生み出す。	デザイン思考を活用し、社会とのつながりの大切さや、やまがたへの愛着を育てるとともに、社会や地域のために自分たちができることを考え、行動する力を養う。	興味関心に基づき、調査・研究し、社会の多岐にわたる分野において活躍、貢献できる資質能力の素地をつくる。

つけたい力			
	１学年【課題を解決する力】	２学年【共に生きる力】	３学年【課題を追究する力】
学びを活用する力	グループ内で見つけた問題をデザイン思考を用いて解決しようとすることができる。	デザイン思考を用いて自分たちができることを考え、行動することができる。	これまでの学びをもとに、広い視野で課題を設定し、課題研究の様々な手法を用いて研究することができる。
自己を認知する力	自分自身のことを振り返り、グループの一員として役割を自覚し、自分を見つめることができる。	自分自身が社会の一員であることを自覚し、社会や地域をよりよくするために自分ができることを考えることができる。	当事者意識と責任感を持って、研究を進めることができる。
社会を形成する力	身近な人の意見を受け入れながら、自分の考えやグループ全体の考えを修正したり､深めたりすることができる。	関係者や専門家の意見を取り入れながら、自分の考えを修正したり、深めたりして、社会や地域とのつながりを感じることができる。	関係者や専門家、有識者との関わりから考えを深め、他と協働して課題に向かうことができる。

基本となる学びのための手法		
１学年	２学年	３学年
イノベーションメソッド・デザイン思考		課題研究メソッド
★ゼロから１を生み出す試み ★生活者の視点　（生活に必要ないろいろなものを計画・設計し生み出す） ★どのように ★前例よりも希望や願望を優先 ★失敗の繰り返しが前提の前向きなアプローチ ★「こうあるべきだ」ではなく「あったらいいな」という人々の共感を重要視		★１をとことん追究、理解する 　また、それを活かす ★開発者や専門家的な視点 ★なぜ？

デザイン思考ものことアイデア型	課題研究型
【課題発見力】 自分の身の回り（地域や社会）に着目し、新しい視点や独特の視点で課題を発見している。 【整理・分析・発想力】 下調べやインタビュー等をして情報を収集し、整理分析して、よりよくなるような興味深いアイデアを発想している。 【課題追究力】 プロトタイプやアイデアを活用して実験したり意見を聞いたりして、アイデアを練り上げている。 【表現力】 人に伝わるような発表・スライド作成に優れており、わかりやすく説得力がある。	【課題発見力】 自分の興味関心に基づき、新しい視点や独特の視点で課題を設定している。 【整理・分析・検証力】 実験やインタビュー等をして情報を収集、整理し、課題に対する主張を導くために何を示したいのかを考えて分析し、検証を試みている。 【課題追究力】 分析した結果をもとに、自分なりに課題の考察を示し、再分析の試行錯誤を繰り返しながら結論を導き出している。 【表現力】 人に伝わるような発表・スライド作成に優れており、わかりやすく説得力がある。